

tus fent fardias'ir

LINGUA FARDISIS

Die Sprache Fardisen

*Langue de Fardisais*

皇堤话

çafian ferçeta

## 文字と発音

### 文字

ファルディアス語で使用する文字は、ラテンアルファベットを元にしてはいますが、幾つか、使われなかったり、2つ以上の文字を重ねて使うものや、記号が付加されたものがあります。大文字は原則として用いません。ここでは地球での印刷時に使うドイツ語のフラクトゥールを元にした書体と、一般的に説明する際に使う普段用いるアルファベットでの書体を示します。

a b c d e f g h i j l m n o p q r s t u v w x y z ç ø

a b c d e f g h i j l m n o p q r s t u v w x y z ç ø

2つ以上の文字を重ねるものと、記号を用いるもの

ah eh ih oh uh yh ar er ir or ur

ah eh ih oh uh yh ar er ir or ur

ei ie ia ai au io iu çh

ei ie ia ai au io iu çh

### 発音

発音を国際音声記号（発音記号）で示します。左側が文字、右側の括弧が国際音声記号です。

**母音** → 全て、日本語の音より明るく、強く、はっきり。

a [a]	y,ei,ie [y]	yh [y:]
e [e]	ø [ø]	er [eø]
i,ia [i]	ah,aa,ar [a:]	ir [iø]
o [o]	eh,ee,ea [e:]	iu [ju]
u [u]	ih,ii [i:]	

**子音** → カタカナ発音は、それぞれの音の後ろにaをつけた時の発音を示します。

b [b]	l,ll [l]	t,tt [tʰ]	※ n は、母音が後ろに続く場合は[n]、後ろが子音なら[N]
k,kk [kʰ]	m [m]	w,v [w]	
d [d]	n,nn [n],[N]	z,zz [z]	※前に母音がある r は、後ろが子音なら、上記の母音として、[e]で発音。後ろが子音なら、上記の発音は無視して、[χ]で発音。
f [f]	p,pp [pʰ]	c,ç,cc [ç]	
g [g]	r [χ]	çh [ç]	
j [z]	s,ss [s]		※ll,nn,rrでは、前の母音を長音化し、その文字(ll,nn,rr)自体は1文字として([l,n,χ])読む。

## 動詞

### 接尾辞、接頭辞

動詞には、主語と目的語を示す接頭辞と、時制と相を示す接尾辞を付加することが出来る。

**基本形** 語幹 + e

**接頭辞** 複数用いるときは、主語→目的語の順番で負荷する。接尾辞動詞、また動詞との間にはハイフンを使う。

	主語	目的語
一人称	la	ly
二人称	wa	wy
三人称	ja	jy

**接尾辞** 態、時制(名詞形含む)、また能動態現在形のみ相によって変化する。動詞の後に、記号を挟まずに付加する。尚、語幹でないため、eは外したあと、この接尾辞を付加する。推定法とは、知っている事実、見たり聞いたりした事実から推定した事柄、または他人から伝聞した事柄などを表すときに用いる。

法	直接法		命令法	推定法
態	能動態	受動態	能動態	能動態
現在形	eete	esø	eetes	eetir
過去形	ost	asee	oses	osir
未来形	emi	eems	enses	emir
名詞形	eçhyz	ans		

命令法では主語(命令する対象)の後に"siast"が呼応して発生する。

## 名詞

### 格変化

格変化は、名詞の語尾によって3種類の別がある。名詞と格変化語尾の間にはアポストロフを挟む。

I型 – 名詞の語尾が i,ü,e

A型 – 名詞の語尾がその他の母音、または h

S型 – 名詞の語尾が子音、または r

	I型	A型	S型	
主格	çh	hk	içh	主語になる時。
対格	s	s	is	目的語(直接目的語)(~を)になるとき。
与格	f	f	if	間接目的語(~に)になるとき。
同格	n	n	in	補語になるとき。(英語の、I am studentのstudent)
属格	sir	zir	ir	名詞を修飾する形として用いる。形容詞と同じ扱い。
連用格	nant	nt	ant	動詞を修飾する。副詞のような扱いになる。
起点格	ro	zo	o	時間的、空間的な起点、または変化前などを表す。
期間格	tf	tf	atf	時間的、空間的な期間をあらわす。
着点格	not	t	ot	時間的、空間的な終着点、変化後。
具格	suk	k	uk	動作時に用いる物、または共に行う人間や動物。
前属格	rn	rn	irn	1 単語を 1 単語で修飾する場合のみ、前置修飾できる。

### 定冠詞

名詞に冠詞を付ける決まりはないが、強調・否定・複数を示す際に用いることが出来る。

これらはハイフンなどを挟まず記す。尚、代用とは、固有名詞や数詞などで格を着けられない場合に代わりに定冠詞を用い、定冠詞を格変化させるためのものである。

強調	tus	近称	pi
否定	sant	中称	so
代用	ist	遠称	ça

## 複数形

名詞は、複数である場合複数形にすることができる。又、名詞には可算名詞と非可算名詞の区別がある。

不可算名詞とは、「普段使う形態に於いて、その物体・物質に同じものを少量加えたり、減らしたりでき、その後でも殆ど同じ役割を果たすもの」で、可算名詞とは、それが出来ないものである。

例えば、コップ一杯(普段使う形態)の水があったとして、そこにスプーン一杯の水を加えることも減らすこともでき、そのあとでも役割を果たす。よってこれは不可算名詞である。「空気」「組織」などでも同じようなことが言える。が、例えば一枚の紙(普段使う形態)があったとして、紙を切ることで減らすことはできても、加えることは出来ない。よってこれは可算名詞である。「パン」「本」などでも同じことが言える。

可算名詞の場合のみ、複数であるときに複数を表す接尾辞"-any"を付加する。

## 指小辞

指小辞は、「小さい」「少し」といった意味を表す接尾辞である。小さい・少ない・可愛らしいということを表したい時に名詞のあとに接尾辞"-enti"を付加する。

## 修飾語性名詞

修飾語性名詞とは、修飾語（～な、～の）のような意味を持ちながら名詞として表示されるものである。修飾語的意味を持ちながらも、前に修飾する対象の語が無い際にこの形を取ることがある。修飾語性名詞は、名詞のあとに接尾辞"-sir"を付加して作る。

## 終詞

### 終詞

文や節の役割などを明示するため、文末や節の最後には一般的に終詞を用いる。  
平叙文では、終詞を用いない。

否定	ser	修飾	tys
疑問	fir,ia	理由修飾	typ
命令	tah	結果修飾	tyk
強調	sent	仮定修飾	tyt
仮定	tyf	疑問修飾	fitys

## 語順

### 話題・焦点

ファルディアス語では、大雑把に語順が決まっています。

#### 話題－動詞－焦点－その他－終詞

話題とはその文章の中で主に話したい題目です。一般的に、それより前の文章で既に取り上げられていることが話題になります。焦点とは、一般的に、前の文章に出ていない新しい要素で重要なものです。これはなくても問題ありません。

話題も焦点も、主格や連用格などの格をもちます。ただ単純に場所を移動することで話題や焦点であることを示します。

尚、動詞の前（話題）にはただ1つの単語しか置けません。（定冠詞と共に置くことはできません。）よって、それを修飾するものは動詞のあとに属格で示します。属格が動詞を修飾することはないので、動詞の後に属格があれば、話題の修飾として理解できます。

また、話題が1語と修飾語でどうしても表せない場合、話題代名詞"tas"と、動詞のあとに同格で代用した語群を置くことで代わりにできます。

### 修飾

ファルディアス語では、修飾は前属格を除きすべて後置修飾です。修飾する語が、修飾される語の後に来ます。

## 仮動詞

### 仮動詞

ファルディアス語では、英語で言うshouldやmust、canなどの助動詞の代わりに、仮動詞と言う物を用います。

仮動詞は、一般的に動詞として用いられるものを動詞としてではなく用いるものです。すべて能動態名詞形を用い、動詞の前、話題の直後に起きます。話題の直後に動詞以外で置けるものはこの仮動詞だけです。

すべての動詞を仮動詞として用いることができますが、主に使われるのは以下のものです。名詞形で示します。

「法」とは、この仮動詞を使う際の動詞の法です。動詞の法を対応させる必要がある仮動詞のみ表記しています。

語	意味	法	否定した場合
øseçhyz	～してよい、許可		～しなくてよい
kaneçhyz	～できる、可能		～できない
seneçhyz	～すべき、推奨		～すべきでない
monçhyz	～しなければならない、義務		～してはならない
waneçhyz	～したい、願望		～したくない
weseçhyz	～しようと思う、意思		～しようと思わない
wese	～らしい、伝聞	推	～ではないらしい
rehs	～だろう、推測	推	～ではないだろう
freçh	～かもしれない、推定	推	～ではないかもしれない
foreçhyz	～するものだ、～している、習慣		～する習慣はない
wereçhyz	(笑)、嘲笑		(否定形には出来ない)
enteçhyz	～しよう、～しましょう、勧誘		～しないようにしましょう
areçhyz	～したことがある、経験		～したことがない
nijeçhyz	～しましょう、提案		～しないようにしたらどうですか
oj	～してください、依頼	命	～しないでください
yzeçhyz	～させる、使役		～させない
fyteçhyz	～しようとする、開始		～しようとしな

## 関係節

### 関係節

ファルディアス語の関係節の語順は以下のとおりです。

#### 動詞－話題－焦点－その他－終詞

関係節とは文を文の中に埋め込むものです。埋め込まれた文は文ではなく節と呼ばれます。埋め込む際、話題は動詞の後ろに引っ込めます。また、仮動詞が合った場合、これも動詞の後ろに引っ込めます。話題の後、焦点の前です。なお、話題を同士の接頭辞で代用出来る場合、話題の部分は省略します。

#### 関係節のはじめの動詞は格変化します。

動詞は時制によって活用された形で、その後にアポストロフィを挟んで格変化語尾を付加します。これによって文の中での関係節の役割を明示します。

#### 終詞には、「修飾」を用います。

ただし、「理由、結果、仮定、疑問」を示す際は、終詞にこれらを用い、関係節の格は連用格とします。

## 接続詞

### Task 1

ファルディアス語にも、英語と同じように接続詞が存在します。英語で言うandのように同じ働きを持つ語・句・節を繋げるものと、becauseのように従属節を繋げるものがあります。一覧として提示するので、必要に応じて参照してください。

iun, set, et, tyt, pot	順接、並立
pah, to	逆説
∅, tar	選択

順接の iun などは英語で言うandと同じだが、英語のように"~,~,~ iun ~"という形には出来ない。全て iun を置くか、または,,(コンマ二つ)で省略する。また逆説の pah は,,(コンマ、アポストロフィ、コンマ)で省略する。

選択の ∅ などは、選択の余地を残された両方を選ぶことも、片方を選ぶことも出来る。英語のorとは違う感覚である。

また、英語の従属接続詞(because,soなど)は、関係詞と理由格や結果格などを用いて表す。



## 数詞

### 数詞

ファルディアス語の数字は、例えば4 3 2なら「よん・さん・に」というように、また英語で表すなら"four, three, two"というように、数字をただ読んでいただけます。

数字をファルディアス語でつづるときには、それぞれをハイフンで繋いでください。

0 nus  
1 ans  
2 fy  
3 rit  
4 çher  
5 wys  
6 sih  
7 fen  
8 çet  
9 tins  
00 us  
000 pis  
0000 sis

432 çher-rit-fy

20 fy-nois

2012 fy-nois-ans-fy

700098 fen-pis-tins-çet

## 指示代名詞

### 4称

近称	piçh
中近称	tuf
中遠称	so
遠称	kah

## 例文

### 例文

la=esteete ist'in çafian ferçeta.

私はシャフィアン・フェルシェタである。

jos'ich alleete serpul'is ser.

彼はダチヨウを持っていない。

jars'ich kanechuz attost peçann's fir?

彼女は魚を食べることができなかったか？

ynansann'ch esteete senann'n çems'ir.

et, çuti'ch esteete serç'in çerfihann'sir.

Les poupées sont le symbole de la mort.

Et, l'automne est la saison des fantômes.

ank'ich weşe çerfosir ceimost'ir tyns jors'ir.

彼の死んだ猫が化けて出たらしい。

fyteçhnz la=enost esteete's jars'ich pank'in tyns ens'ant.

彼女が可愛いと最近思うようになった。

ist'ich çaalafiare ferçeta kis tian esteete kis'in em'ir fardias'ir.

et, kis'ich eete nukicana'zir ist'in kisaka iukifena kis tian.

シャーラフィレ・フェルシェタ公主殿下は現在のファルディアス公主である。また、ユキシヤナの公主はキサカ・ユキフェナ公主殿下である。

lis'is oj wa=ly=nenses.

私に手紙を書いて下さい。